

●シリーズ●わが町の文化財へ77

世羅町重要文化財 鰐口 わにぐち

昭和56年6月15日指定

光明山遍照寺は、同寺の由来書によると弘法大師創建と伝えられており、大師が、同寺の僧を訪れたとの伝承のある古寺で、また、中世神崎 かんざきのしょう 庄の領家方の政所 まんどころ として建立された寺であると推測されています。

この寺には、15世紀の古い鰐口が伝えられています。鰐口は、直径24cm、厚さ7.6cm、片面左に「応仁元捨（二四六七）六月一日」、右に「願主女太施主辛巳」の紀年銘があります。また、中央には梅鉢紋の浮彫があります。

町内の神社やお寺には中世から近世の鰐口が現在10口ばかり発見されています。

応仁元年鑄造の鰐口は、郡内で戦のあった、寛正3年（一四六二）の乱や応仁頃の戦乱の影響をうけて奉納されたものと考えられています。

※鰐口とは

うちがね 打金・張合・金鼓 こんく とも呼ばれる銅製の鳴らし具（梵音具）で、鉄製のものもある。



●シリーズ●わが町の文化財へ78

世羅町重要文化財 木造狛犬

昭和59年5月15日指定

この狛犬は、奈良・大神神社 おのみわ の狛犬像に似た形のもので、上体をまつすぐにのぼし、荒々しい獣性を感じさせます。像高は74.9

cmで、頭部の鬣 たてがみ（三段）までと胴部とが二つに分かれる形式をとっており、町内の他の狛犬とは異なった体軀をしています。狛犬には正平3年（一三四八）の墨書があったとされています。頭部とそれ以下が二つに分かれる様式の狛犬は県内では珍しいものです。昭和の修理により彩色が施されていますが、南北朝時代の狛犬の特徴を伝える彫刻として貴重です。

※狛犬をよく見ると

口を開けたものと閉じているものがある。向かって右側が阿（あ）形（ぎょう）像、左側が吽（うん）形（ぎょう）像。伝承では、神社の門を守護している神獣だけに、「何か悪いことをして隠し事をしていても『あ』から『うん』までお見通し」であるとか、「口を開けている側は人が生まれた時、つぐんでいる側は死んだとき」というふうな、人の一生を表しているともいわれています。

